

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立春日小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

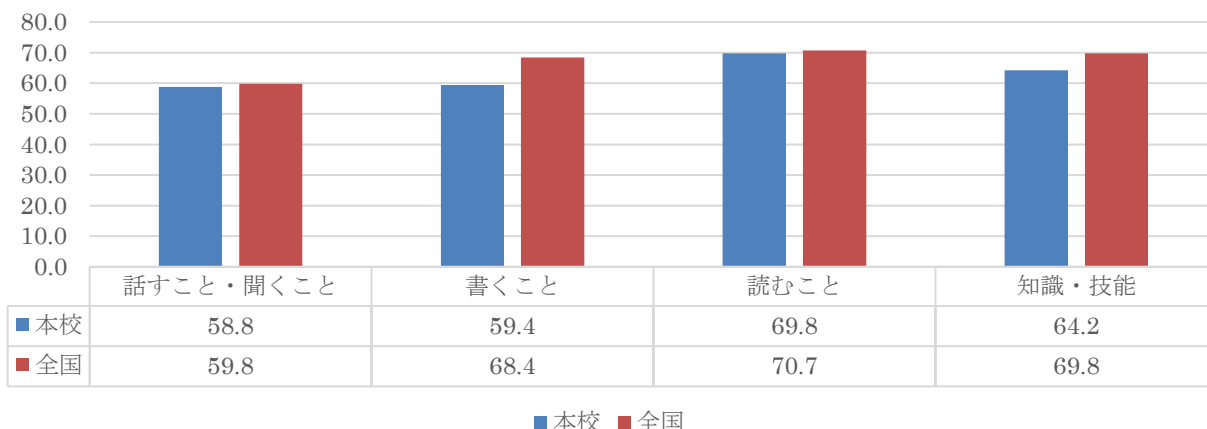
■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

全国平均正答率との比較（小学校国語）



(1) 結 果

全ての領域で全国平均正答率を下回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」に関しては、全国平均より若干下回っているものの、大きな差は見られません。なかでも「人物像を想像する」「目的や意図に応じて伝え合う内容を考える」ことについては若干上回っています。課題としては、「書くこと」が全国平均より大きく下回っています。とくに「自分の考えを伝えるように工夫して書く、明確にして書く」ことに課題があります。本校では、ここ数年、2つ以上の条件をもとに文を書くなど「書くこと」には取り組んでいますが、「思考力・判断力・表現力」を生かして書く活動を仕組む必要があります。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

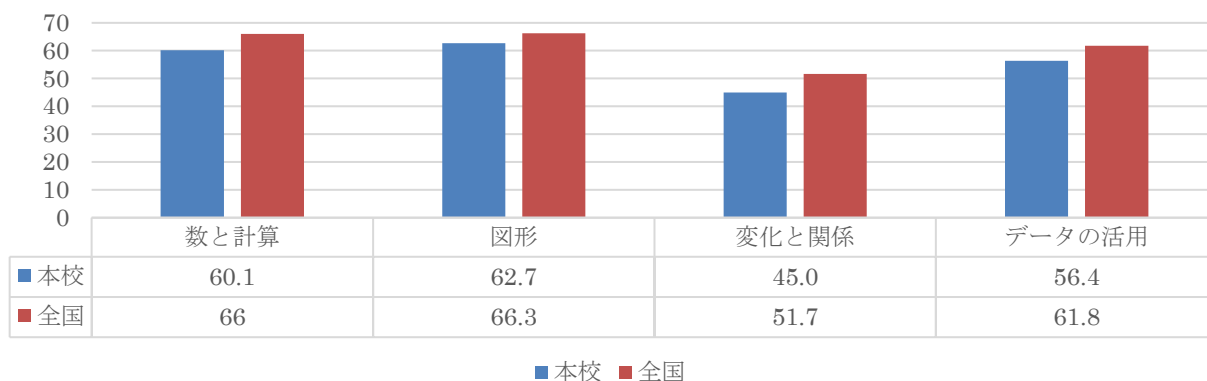
- これからも引き続き、条件にあった自分の考えを書く活動を取り入れます。その際、簡潔にわかりやすい文章を書くことをめざします。
- 読み取ったことに対する考えを自分で構成して文章化する授業を意図的に取り入れます。自分で読み直したり、友だちと読み合ったりしながら、題意や条件に合っているのかを問い直す時間を設定し、相手意識や目的をもってよりよい表現になるように取り組ませます。

【ご家庭では】

- 全学年、毎日の宿題で音読を出しています。音読を継続することで、文のつながりや構成がわかったり、語彙が増えたりして、書かれている文章をイメージすることができるようになります。文章を読み、そのイメージを持つことができることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。多くのジャンルの本をたくさん読むことで、語彙力を高め知識の幅が広がります。ご家庭でも、お子さんと一緒に読書に親しんでください。

2 算数(数学)

全国平均正答率との比較（小学校算数）



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を下回っています。無解答率については、ほとんどの問題で全国よりも低くなっており、どうにか答えを求めようとする姿勢が見られます。しかし、記述式の問いに対して、無解答率が全国より若干高くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、どの領域に関しても、全国平均を下回っているものの、大きな差は見られませんでした。なかでも「図形」の領域で全国平均をわずかながら超えている問題が見られました。

どの領域も「思考・判断・表現」の観点では、全国平均とほぼ変わらないのですが、「知識・技能」の観点が大きく下回っています。とくに、量感や空間認知のイメージができなかったり、計算の基礎となる四則計算等ができなかったりしています。また、「題意をとらえる」ことや「必要な情報を読み取る」ことにも課題がみられます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 計算の基礎となる四則計算等の基礎・基本を高めていくために、既習内容にも繰り返し取り組みさせるようにします。
- 文章の読み直しや問題への書き込みにより、問題文の情報を整理し、題意を把握するような活動を、授業の中に取り入れていきます。また、自分の考えが題意や条件に合っているか問い直す時間や場を設けます。
- 自分の考えだけにとらわれず、友達の考えを受け入れ、どのように解いていくかを考えさせたり、話し合わせたりする学び合いの充実を行うことで、さらに考えを深めさせます。

【ご家庭では】

- 日常の生活の中には、学習した算数を活用できる場面（買い物や料理、時刻等）がたくさんあります。ぜひそういう場面でお子さんに声をかけていただき、算数の学習が日常生活の中で役立つことを実感させてください。
- お子さんのノートや学習プリント、テストなどをご覧ください。そしてほめてくださったり、励ましてくださったりすることで、子どもたちの頑張りにつながります。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	86.1%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	47.2%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	56.5%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	31.5%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	65.7%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	74.1%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.3%	79.5%

「早寝」「早起き」「朝ご飯」などの生活習慣や「いじめはいけない」とする規範意識に関する項目が全国平均より高くなっています。「自分に良いところがあるか」の自己肯定感については、全国平均より低くなっています。学校や家庭で「ほめる」ことを多くして自己肯定感を高めていきましょう。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	13.0%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.3%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	38.9%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	29.6%	27.0%
「30分より少ない」	7.4%	13.0%
「全くしない」	1.9%	5.3%

家庭学習については、6年生の家庭学習の目標時間である「1時間以上」の児童が6割を超えています。過半数以上の児童においては、毎日の学習の定着が見られます。その反面、「1時間未満」の児童が4割と個人差が見られます。家庭学習学習ががんばろう週間などを通して、家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。

(2)改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、毎日、学習の進捗や学年に応じた量の宿題を出しています。4年生以上の児童は、タブレットを使った宿題の取り組みも行っています。
- 自主学習（自学）についても低学年から取り組んでいます。自分の苦手な教科の復習や、好きな教科で興味のある学習課題を自分で見つけて取り組んでいます。児童玄関には、がんばっている児童の自主学習ノートを掲示し、やり方の手がかりにしたり、励みになるようにしたりしながら、自分から学ぼうとする態度を高めていきたいと思ひます。

【ご家庭では】

- 家に帰ったらまず宿題をするなど、学習をするタイミングや時間などを決め、宿題をする時にはテレビを消すなど、学習に向かう環境を整えてください。
- 家庭学習ががんばろう週間の時には、毎日お子さんの学習の様子を確認していただき、1週間の終わりには、お子さんと一緒に振り返りをお願いします。家庭学習のがんばりを学校で紹介したいと思ひますので、ぜひ教えてください。